

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月8日

【四半期会計期間】 第112期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 近畿車輛株式会社

【英訳名】 THE KINKI SHARYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉 川 富 雄

【本店の所在の場所】 大阪府東大阪市稲田上町2丁目2番46号

【電話番号】 06(6746)5231

【事務連絡者氏名】 上席執行役員経理部長 長 島 努

【最寄りの連絡場所】 大阪府東大阪市稲田上町2丁目2番46号

【電話番号】 06(6746)5231

【事務連絡者氏名】 上席執行役員経理部長 長 島 努

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第111期 第2四半期 連結累計期間	第112期 第2四半期 連結累計期間	第111期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	16,497	16,071	35,873
経常利益 (百万円)	812	2,322	1,283
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	792	1,894	1,183
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,494	3,415	3,026
純資産額 (百万円)	26,762	30,364	27,294
総資産額 (百万円)	60,600	60,110	55,488
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	115.21	275.26	171.97
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	44.2	50.5	49.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	983	4,168	5,919
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	371	3,077	652
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,824	1,515	8,255
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,999	4,936	4,157

回次	第111期 第2四半期 連結会計期間	第112期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	87.53	100.93

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の当社グループ（当社及び連結子会社）における業績は、売上高が160億7千1百万円（前年同四半期売上高164億9千7百万円）と前年同四半期と比べ4億2千5百万円の減収となりました。営業利益は16億3千7百万円（前年同四半期営業利益1億7千3百万円）と前年同四半期と比べ14億6千3百万円の増益となりました。経常利益は23億2千2百万円（前年同四半期経常利益8億1千2百万円）と前年同四半期と比べ15億1千万円の増益となりました。以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億9千4百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純利益7億9千2百万円）と前年同四半期と比べ11億1百万円の増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

鉄道車両関連事業

東京地下鉄株式会社向電車、北大阪急行電鉄株式会社向電車及び京都市交通局向電車等により、売上高は156億6千2百万円（前年同四半期売上高160億9千1百万円）と前年同四半期と比べ4億2千8百万円の減収となりました。営業利益は19億1百万円（前年同四半期営業利益3億5千1百万円）と前年同四半期と比べ15億4千9百万円の増益となりました。

不動産賃貸事業

東大阪商業施設及び所沢商業施設を中心に売上高は4億8百万円（前年同四半期売上高4億6百万円）となりました。営業利益は3億5千6百万円（前年同四半期営業利益3億5千4百万円）となりました。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、601億1千万円（前連結会計年度末554億8千8百万円）と46億2千1百万円の増加となりました。流動資産は主に仕掛品の増加により、410億4千9百万円（前連結会計年度末374億4百万円）と36億4千4百万円の増加となりました。固定資産は、190億6千1百万円（前連結会計年度末180億8千3百万円）と9億7千7百万円の増加となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、297億4千5百万円（前連結会計年度末281億9千4百万円）と15億5千万円の増加となりました。流動負債は主に短期借入金の増加により、207億4千1百万円（前連結会計年度末194億6千6百万円）と12億7千5百万円の増加となりました。固定負債は、90億4百万円（前連結会計年度末87億2千8百万円）と2億7千5百万円の増加となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、303億6千4百万円（前連結会計年度末272億9千4百万円）と30億7千万円の増加となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、49億3千6百万円（前連結会計年度末41億5千7百万円）と7億7千8百万円の増加となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が23億2千2百万円となりましたが、主に棚卸資産の増加により、41億6千8百万円の支出（前年同四半期9億8千3百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に担保に供している預金の減少により、30億7千7百万円の収入（前年同四半期3億7千1百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金の増加により、15億1千5百万円の収入（前年同四半期48億2千4百万円の支出）となりました。

(3) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億2千9百万円であります。

(4) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	17,431	107.4
合計	17,431	107.4

受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	32,149	213.6	125,353	104.0
合計	32,149	213.6	125,353	104.0

販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
鉄道車両関連事業	15,662	97.3
不動産賃貸事業	408	100.7
合計	16,071	97.4

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,908,359	6,908,359	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,908,359	6,908,359		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		6,908,359		5,252		2,624

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式(自 己株式を除 く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(近畿日本鉄道株式会社退職給 付信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	20,846	30.30
近鉄グループホールディングス株式 会社	大阪市天王寺区上本町6丁目1番55号	9,708	14.11
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目13番14号	5,381	7.82
西日本旅客鉄道株式会社	大阪市北区芝田2丁目4番24号	3,454	5.02
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,617	3.80
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	1,781	2.59
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サッ クス証券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木6丁目10番1号)	1,180	1.71
BNP PARIBAS LONDON BRANCH FOR PRIME BROKERAGE CLEARANCE ACC FOR THIRD PARTY (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	10 HAREWOOD AVENUE LONDON NW1 6AA (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,000	1.45
三菱重工業株式会社	東京都千代田区丸の内3丁目2番3号	770	1.12
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任代理人 インタラクティブ・ ブローカーズ証券株式会社)	ONE PICKWICK PLAZA GREENWICH, CONNECTICUT 06830 USA (東京都千代田区霞が関3丁目2番5号)	529	0.77
計		47,266	68.69

- (注) 1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(近畿日本鉄道株式会社退職給付信託口)の所有株式数20,846百株は、近畿日本鉄道株式会社から同行へ委託された信託財産であり、信託契約上、議決権の行使については近畿日本鉄道株式会社が指図権を留保しております。
- 2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 2,617百株
- 3 2023年10月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、エフィッシモキャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディーが2023年9月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券数 (百株)	株券等保有割合 (%)
EFFISSIMO CAPITAL MANAGEMENT PTE. LTD.	260 ORCHARD ROAD #12-06 THE HEEREN SINGAPORE 238855	6,738	9.75

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,400		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,859,800	68,598	同上
単元未満株式	普通株式 21,159		
発行済株式総数	6,908,359		
総株主の議決権		68,598	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式83株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 近畿車輛株式会社	東大阪市稲田上町2丁目 2番46号	27,400		27,400	0.40
計		27,400		27,400	0.40

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権2個)あります。

なお、当該株式数は、上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (2023年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,635	4,939
受取手形、売掛金及び契約資産	14,096	16,802
仕掛品	13,581	18,215
原材料及び貯蔵品	524	486
その他	1,591	633
貸倒引当金	25	27
流動資産合計	37,404	41,049
固定資産		
有形固定資産	12,258	12,006
無形固定資産	111	313
投資その他の資産		
投資有価証券	5,403	6,474
その他	313	269
貸倒引当金	3	3
投資その他の資産合計	5,714	6,741
固定資産合計	18,083	19,061
資産合計	55,488	60,110

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,537	5,270
短期借入金	4,700	6,600
未払法人税等	156	541
契約負債	3,314	3,212
賞与引当金	378	444
製品保証引当金	637	508
受注損失引当金	1,163	1,065
その他	3,579	3,098
流動負債合計	19,466	20,741
固定負債		
長期借入金	3,000	3,000
退職給付に係る負債	2,798	2,757
その他	2,929	3,246
固定負債合計	8,728	9,004
負債合計	28,194	29,745
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,252	5,252
資本剰余金	3,124	3,124
利益剰余金	15,630	17,180
自己株式	105	106
株主資本合計	23,902	25,451
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,373	2,117
為替換算調整勘定	2,074	2,844
退職給付に係る調整累計額	56	48
その他の包括利益累計額合計	3,392	4,913
純資産合計	27,294	30,364
負債純資産合計	55,488	60,110

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	16,497	16,071
売上原価	14,660	12,598
売上総利益	1,836	3,473
販売費及び一般管理費	1 1,663	1 1,836
営業利益	173	1,637
営業外収益		
受取利息	0	56
受取配当金	54	67
為替差益	652	616
雑収入	14	8
営業外収益合計	722	748
営業外費用		
支払利息	20	37
支払手数料	35	-
固定資産除却損	5	18
雑支出	22	7
営業外費用合計	83	62
経常利益	812	2,322
税金等調整前四半期純利益	812	2,322
法人税、住民税及び事業税	5	454
法人税等還付税額	-	35
法人税等調整額	13	9
法人税等合計	19	428
四半期純利益	792	1,894
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	792	1,894

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	792	1,894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	107	743
為替換算調整勘定	1,576	769
退職給付に係る調整額	17	8
その他の包括利益合計	1,701	1,521
四半期包括利益	2,494	3,415
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,494	3,415
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年 4月 1日 至 2022年 9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年 9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	812	2,322
減価償却費	596	624
賞与引当金の増減額（ は減少）	55	61
貸倒引当金の増減額（ は減少）	1	-
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	50	32
製品保証引当金の増減額（ は減少）	118	128
受注損失引当金の増減額（ は減少）	980	99
受取利息及び受取配当金	54	123
支払利息	20	37
有形固定資産売却損益（ は益）	0	0
売上債権の増減額（ は増加）	4,407	2,084
棚卸資産の増減額（ は増加）	861	4,416
仕入債務の増減額（ は減少）	3,833	106
未払金及び未払費用の増減額（ は減少）	112	32
未収消費税等の増減額（ は増加）	236	35
未払消費税等の増減額（ は減少）	33	468
その他	139	100
小計	749	4,304
利息及び配当金の受取額	54	123
利息の支払額	17	36
法人税等の支払額	5	96
法人税等の還付額	203	145
営業活動によるキャッシュ・フロー	983	4,168
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2	-
定期預金の払戻による収入	2	-
有形固定資産の取得による支出	396	347
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	48	112
担保に供している預金の増減額（ は増加）	72	3,537
投資活動によるキャッシュ・フロー	371	3,077
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	7,600	1,900
長期借入れによる収入	3,000	-
長期借入金の返済による支出	2	-
リース債務の返済による支出	15	41
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	205	343
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,824	1,515
現金及び現金同等物に係る換算差額	363	354
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	3,848	778
現金及び現金同等物の期首残高	6,847	4,157
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,999	1 4,936

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
給料及び手当	421百万円	442百万円
賞与引当金繰入額	53 "	53 "
退職給付費用	30 "	28 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
現金及び預金	6,590百万円	4,939百万円
預入期間が 3 か月を超える 定期預金	44 "	3 "
担保に供している預金	3,547 "	- "
現金及び現金同等物	2,999 "	4,936 "

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)

- 1 . 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 5 月12日 取締役会	普通株式	206	30.00	2022年 3 月31日	2022年 6 月13日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間(自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)

- 1 . 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1 株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年 5 月22日 取締役会	普通株式	344	50.00	2023年 3 月31日	2023年 6 月13日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	16,091	-	16,091	-	16,091
その他の収益	-	406	406	-	406
外部顧客への売上高	16,091	406	16,497	-	16,497
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	16,091	406	16,497	-	16,497
セグメント利益	351	354	706	532	173

(注) 1 セグメント利益の調整額 532百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 532百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	鉄道車両 関連事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	15,662	-	15,662	-	15,662
その他の収益	-	408	408	-	408
外部顧客への売上高	15,662	408	16,071	-	16,071
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	15,662	408	16,071	-	16,071
セグメント利益	1,901	356	2,258	621	1,637

(注) 1 セグメント利益の調整額 621百万円は、各報告セグメントに帰属していない全社費用 621百万円であり、全社費用は当社本社の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益	115円21銭	275円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	792	1,894
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	792	1,894
普通株式の期中平均株式数(株)	6,881,259	6,880,974

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月 8 日

近畿車輛株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 橋 盛 子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 俊 之

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている近畿車輛株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、近畿車輛株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。